

バスケット語の語彙*

乾 秀行 (山口大学)

キーワード: バスケット語、語彙、音素目録

0 はじめに

本稿の目的は、エチオピアのオモ系の中の西オメト諸語に分類されているバスケット語 (Basketo¹) の音素について、先行研究では正しく記述されていなかった点を指摘し、音素目録を提示すると共に、Alemayehu A. (2001) の語彙データを吟味し、正確な語彙の音素表記および意味記述を行うことである。

1 先行研究

一般にオモ系の言語の研究はエチオピアの他のセム系やクシ系の言語に比べて極めて遅れている。これまでのところいくつかの言語に関して簡単な語彙調査や文法記述がされている程度で、言語構造の詳細な研究はこ

*本稿のデータは、2002年3月および10月にエチオピア連邦民主共和国内のガンモゴファ州都アルバミンチで文法記述をした際に収集したものである。インフォーマントにはバスケット語母語話者の居住地域である balt'a 村生まれで、現在はアルバミンチで生計を立てている、Fiqre Dejene 氏になっていただいた。また10月の調査では Tamiru Shankoru 氏が同行し、筆者の調査の補助をしていただいた。お二人に感謝の意を表す。話し手人口に関して Bender (1976) に約9千人と記されているが、Ethnologue には1998年の人口調査で約5万8千人の母語話者がいると記載されている。アルバミンチ在住の複数のバスケット語母語話者に聞いた限りでは、生まれ故郷の村での会話はどんな場面でも今でもほとんどバスケット語だけでなされている。それに対して都市に移住したバスケット語話者は、たとえ夫婦ともバスケット語話者であっても、都市で使われている言語がアムハラ語やガンモ語であるならば、家庭でさえ子供に自分たちの言語で話しかけないし、また教えないという。なお本稿は平成13年～16年度科学研究費基盤研究 (B)(1) 「多言語国家エチオピアにおける少数言語の記述、ならびに言語接触に関する調査研究: 代表柘植洋一 (金沢大学)」 (課題番号 13571039) による研究の成果の一部である。

¹言語名に関しては、Basketo 以外に Mesketo, Basketto, Baskatta などがある。

れからである。ところでオモ諸語の中でもオメト諸語は、比較的早い時期から研究が行われたグループで、本稿で論じるバスケット語もその1つである。Cerulli (1938) にはバスケット語の簡単な文法説明と語彙表がある。その中には音素目録²についても簡単な記載がある。

ところで近年 SIL (Summer Institute of Linguistics) がアディスアベバ大学のエチオピア研究所 (Institute of Ethiopian Studies) と協力してエチオピア国内の少数言語の記述 (Survey of Little-known Languages of Ethiopia (S.L.L.E.)) を行っており、現在その研究成果は SILESR (SIL Electronic Survey Reports) の中で公開されている。バスケット語に関して、Alemayehu A. (2001) で 300 あまりの語彙調査結果が報告されており、また Alemayehu A. (2002) では簡単な文法記述がされている³。

2 音素目録

2.1 母音

バスケット語の母音体系は 5 母音であると思われる。Alemayehu H. (1994) では /i, e, a, o, u, i, v/ の 7 母音として議論している。ここでは /i/ と /v/ の 2 つの音素の認定について考察する。なお Cerulli (1938) にも、5 母音以外に /v/ の音素が挙げられているので、あわせて論じる。まずこれらの母音音素として記述されている語彙をそれぞれの論文の中から取り出してみる (本稿での記述を列記した。「先行研究の記述/本稿の記述」の順。)。() 内の数字は後述の語彙リスト番号に対応する (以下同様)。

² 古い文献のため、音素の分類方法や名称の中には、今ではあまり用いられないものが見受けられる。しかし表す音素が何なのかは音素文字から予測可能である。調音位置は Laringali, Postpalatali, Palatali, Prepalatali, Alveolari e Dentali, Labiali, Semivocali で分類され、調音様式は Occlusive (Sorde, Sonore), Spiranti (Sorde, Sonore), Liquide (Nasali, Orali) で分類されている。

³ Alemayehu A. (2001) 及び Alemayehu A. (2002) の現地調査はいずれも、1993 年 3 月 26 日から 4 月 1 日の間に行われた。しかし同時にオイダ語 (oyda)、ガリラ語 (Galila)、マロ語 (Melo)、ゴファ語 (Gofa)、ガンモ語 (Gamo)、ドルゼ語 (Dorze)、ダウロ語 (Dawro)、ウォライタ語 (Wolayta) の調査も同期間に遂行されており、かなりな強行スケジュールで複数の言語記述を行ったようである。バスケット語の調査も、悪天候のため道がぬかるみ、当初予定していたバスケット語地域に入れず、足止めされた所にいた 3 人のバスケット語話者から短時間で聞き取り調査をしたとされている。そのためか、多くの点で記述が不正確である。なお Alemayehu A. (2002) で言及されているバスケット語の文法については、別の機会に論じるつもりである。

Alemayehu H. (1994)

/i/

?usintf/ufintf'a/i (horn:147)

wojlints/wojlints(many:281)

/e/

nem?i/nam?i (two:97)

kafi/kafi (bird:152)

tama/tama (fire:199)

/i/に関して、本稿のインフォーマントの発音及び音素意識は/i/であり、これらの音が中舌母音/i/と記述しなければならない根拠は今のところ見あたらない。同様に/e/に関して、本稿のインフォーマントはどれも/a/の音素として発音した。これらの音を中舌母音/e/と表記し、別の音素として認定しなければならない根拠もまた見あたらない⁴。

Cerulli (1938)

/e/

fetten/fettan (one:96)

一方 Cerulli (1938) に見つけられる語彙の最初の母音に関しては、解釈が難しい。筆者自身も当初/a/と記述していたが、インフォーマントと確認作業をしている中で/e/に変更した。音声学的には中舌化しているので、/e/と表記することも可能と思われる。しかし他にこの音素を使った語彙が見つからない(機能効率の問題)ことと、この母音と他の母音が対立する最小対語を見つけることができない(弁別性の問題)ので、現時点では/e/の異音と解釈せざるをえない。このことはインフォーマントが5母音という音素意識を持っていることと合致する。異音の条件について今後さらに詳細な検討が必要であると思われるが、ここでは5母音として議論を進めることにする。狭母音の/i/および/u/の具現形は、半狭母音まで及んでいる。

⁴Alemayehu H. (1994) のインフォーマントは13歳までバスケット語で生活し、ゴファ語、アムハラ語を習得した後、アディスアベバで生活している。アディスアベバでの共通語がアムハラ語であることを勘案すると、アムハラ語の母音の影響が現れたとも考えられる。しかし母語話者の音素意識がそう簡単には変わらないので、調査者が適正な音素認定作業をせず、アムハラ語に引きずられて記述した可能性も否定できない。

それと連鎖して/e/および/o/の具現形は半広母音まで拡大する。一方/a/は前舌でないことが重要で、前舌広母音 [a] では認識されない。それぞれの音素と音声的具現形の大まかな範囲を示すとおおよそ次のようになる。

- /i/ ([i] ~ [e])
- /e/ ([ɛ] ~ [e] ~ [v])
- /a/ ([a] ~ [ɑ])
- /o/ ([ɔ] ~ [ɔ])
- /u/ ([u] ~ [o])

母音の長短については弁別的であると思われる。例えば最小対語として、mi:ja は「お金」の意で、mija は mijire 「加える」の命令形で「もっとくれ」の意である。長母音も短母音に対応して/a:, e:, i:, o:, u:/の5つとなる。しかし記述段階で長短の違いを確認した場合でも、実際にテープに録音する段になってインフォーマントに発音してもらおうと長短が違っている例がいくつか出てきた。母音の長短がどの程度音韻化されているのかさらに検討を要するであろう。

2.2 子音

Cerulli (1938) によれば、バスケット語には /p, b, β, t, d, t', d', ts, tʃ, ɕ, tʃ', k, g, k', ʔ, f, s, z, ʃ, h, m, n, r, l, w, j/ の 26 の子音がある⁵。また Alemayehu H. (1994) には、/p, b, p', t, d, d', ts, tʃ, tʃ', k, g, k', ʔ, s, z, ʃ, ʒ, h, m, n, r, l, j, w/ の 24 の子音が挙げられている⁶。そこでまず最初に、これらの先行研究と本稿で提案する子音音素目録の異なる表記部分のみを表にし、論点を整理すると次のようになる。

⁵ 古い文献のため、音素文字表記に関して、いくつか不明な点もある。occlusion glottale として同じ [ʔ] の補助記号で表されているものの中には、放出音のグループ以外に、/d/ と /b/、/m/ と /ŋ/ が挙げられている。前 2 つは入破音と認定した。また後 2 つは /ʔ/ を 1 つの音素として認定することで 2 つの音素連続として解釈した。

⁶ それぞれの音素に対して弁別特徴の +/- が記載されている。しかし記載されている音素文字の説明が無く、唯一確認するための弁別特徴の記述そのものにも印刷ミスと思われる箇所が多い。そのため実際にどの音素を表しているのかわからないものもある。筆者の判断で 24 の子音をこのように解釈した。

Cerulli		ʃ	t'	f	ɕ		
Alemayehu H.	p'					ʒ	
本稿	(p')	ʃ	ts'	f	(ɕ)	(ʒ)	fi

1. 放出音/p'/と入破音/ʃ/の解釈
2. 有声声門摩擦音/fi/の存在
3. 閉鎖音の破擦音化 (/t' / > /ts' /) および摩擦音化 (/p' / > /f /)
4. 機能効率の低い音素および異音について

2.2.1 放出音/p'/と入破音/ʃ/の解釈

Cerulli (1938) の中で/ʃ/が現れる語彙を論文の中で探すと、唯一/taʃa:/「10」が見つかる。母音間に現れるという簡単な説明が加えられている⁷。一方 Alemayehu H. (1994) にはそのような音素が挙げられていない。同様に Alemayehu A. (2001, 2002) にも見当たらない。つまり近年の研究において、入破音の/ʃ/は記述されていない。しかし今回の調査結果から両唇入破音/ʃ/の存在をはっきりと確認することができた。以下に例を示す。

taʃʃa (ten:105)

ʃarints(long:263)

ʃetʃi (big:265)

入破音の系列において、/d/があるのは、エチオピアのクシ系およびオモ系言語に広く見られる現象である⁸。それに対して/ʃ/は、/d/ほど報告例がない。それでもバスケット語と同じオメト諸語⁹に分類され、地理的にも近いクロ語 (Kullo)¹⁰やチャラ語 (Chara)¹¹、あるいはザイセ語 (Zayse)¹²などにおいて、両唇の位置に入破音を持つことが報告されている。一般に入

⁷入破音が生じる環境として母音間に限定する必要はない。音声学的には語末の位置より母音が後続する位置の方が現れやすい。

⁸Ferguson (1976) にはエチオピアの言語の音韻特徴の1つとして“presence of d'”が挙げられている。

⁹Bender et al. (1976) の分類によれば、クロ語 (Kullo) は北オメト語、チャラ語 (Chara) は西オメト語、ザイセ語 (Zayse) は東オメト語にそれぞれ分類されている。

¹⁰Allan (1976)。

¹¹Aklilu (2002)。

¹²Hayward (1990)。

破音の系列は調音位置が前であるほど無標である。つまり、類型論的あるいは音声学的には/d/があるならば、/β/があってもおかしくないといえる。逆に放出音の系列は調音位置が後ろであるほど無標である。そのことを勘案して、バスケット語の語彙データを見てみると、放出音/p'/の出現頻度が極端に少ないことに気づく。Alemayehu A. (2001) には/p'/が3例 (ts'a:p'a (53), tapp'a (105), hop'e (234)) あるのに対して、本稿のインフォーマントには/p'/は現れなかった。実際 105 の語彙は taββa と発音しており、Cerulli (1938) の記述と同じように、見事に入破音で実現されている。同様の例として、Alemayehu A. (2002) には、上記した 265 の βefji (big) が p'atfj と p'/ で記述されている。仮に Alemayehu A. (2001, 2002) の記述が正しいと仮定するならば、共時レベルで話者によって揺れが起きていると考えることもできる。類型論的あるいは音声学的に見れば、有標の放出音の/p'/から無標の入破音の/β/への推移が共時レベルで徐々に進行していると捉えることができるかもしれない。

2.2.2 有声声門摩擦音/ɦ/の存在

先行研究で全くその存在に気づかれなかった音素として、今回の調査で有声声門摩擦音/ɦ/があることが判明した。以下にその例を示す。

fiajk'ire (die:93)
 fajdzi (three:98)
 fiadirs (left:275)
 faj (this:285)
 fajda (here:293)

有声声門摩擦音/ɦ/は、語頭の位置にのみ現れ、また後続母音が/a/に限られる。母音間に現れるわけではないので、音声学的に/h/の異音として解釈するのは難しい。なおこの音素は近隣の言語にはあまり報告例がない。Alemayehu A. (2002) にも、xantsi (these) という記述が見受けられる。複数標示は {-antsa/i}¹³なので、faj (this:285) の複数形は fajantsa/i となり、この音素を/x/と解釈しているようである。しかし有声でないだけでなく、調音位置も全く違う。このような音が出現する背景には、同じ調音位置で対

¹³対格形が^a-a で主格形が^a-i になる。

立する無声声門摩擦音/h/の存在と摩擦音全体に有声/無声の対立があることが考えられる。音韻体系から見た場合、声門の位置において、アキマを埋めるために出現したと説明できるかもしれない。

2.2.3 閉鎖音の破擦音化 (/t'/ > /ts'/) および摩擦音化 (/p/ > /f/)

先行研究でなぜ/ts'/の記述が見落とされているのか不可解である。この音素は出現頻度がかなり高い。ガンモ語 (gamo) などの他のオモ系言語と同じく、放出音の/t'/は/ts'/で対応して出てくる。したがって Cerulli (1938) の/t'/は/ts'/と解釈されなければならないであろう。例えばアムハラ語から/t'/の音素を持つ語彙を借用する場合、/ts'/の音素として取り入れられる。

t'alla > ts'alla (local beer)

一方 Ferguson (1976) の音韻特徴にもあるように、/p/ > /f/への変化はエチオピアの言語に広く見られる現象であるが、オモ系ではむしろ珍しい。しかしインフォーマントは、多くの語彙に関して、/p/ > /f/ の例を示した。但しこの変化は規則的なものではなく、例外もある。音素としては、/p/も/f/もまだ共存しているといえる。

a:pe > a:fe (eye:22)

pettan > fettan (one:96)

pittire > fittire (sweep:190)

paidire/*faidire (count:184)

2.2.4 機能効率の低い音素および異音について

有声歯茎破擦音/dz/は fiajdzi (three:98) にのみ現れる。また有声後部歯茎摩擦音/ʒ/は ʒafa (stick:206) や ʒuguttire (throw:253) に現れる。なお Cerulli (1938) の/dʒ/は/ʒ/ではないかと思われる。いずれも今のところ極めて出現頻度の低い音素である。対応する無声の破擦音や摩擦音があることで体系内にアキマが生じ、このような音素が出現する要因となっていると思われる。

一方/f/に対立する有声両唇摩擦音 [β] は、aβakar (none:274/empty:302) や aβaβo (why:295) のように見つかるけれども、今のところ/b/の異音として

母音間で現れると考えるのが妥当である。インフォーマントも音声学的な違いを認識しているが、音素として認識されるにはまだ至っていない。異音の例としては、ほかに [ŋ] がある。/n/が軟口蓋閉鎖音/k/及びg/に後続される場合に、逆行同化して異音 [ŋ] が現れる。なおこの異音の解釈については、すでに Alemayehu H. (1994) でも音韻規則として指摘されている。

2.2.5 子音体系

以上より筆者のインフォーマントから得られたバスケット語の子音音素目録は次のようになる。子音の数は全部で29である。()で括った音素は頻度が低い。また []で括ったのは、異音である。

無声閉鎖音/破擦音	p	t	ts	tʃ	k	ʔ
有声閉鎖音/破擦音	b	d	(dʒ)		g	
放出音	(pʰ)		tsʰ	tʃʰ	kʰ	
入破音	ɸ	ɸ				
無声摩擦音	f	s		ʃ		h
有声摩擦音	[β]	z		(ʒ)		fi
鼻音	m	n			[ŋ]	
ふるえ音		r				
側面音		l				
半母音	w			j		

3 語彙リスト

最後に今まで見てきたバスケット語の音素目録に基づいて、Alemayehu A. (2001) の語彙リストを吟味し、不正確な音素表記を訂正する。さらに意味記述においても、いくつかの誤りを指摘し、バスケット語の語彙の基礎資料を提供することにする。これは Survey of Little-known Languages of Ethiopia (S.L.L.E.) で選定された語彙リストである。

記述に際して留意した点について以下に箇条書きしておく。

1. Alemayehu A. (2001) の記載を基にしたため、Gloss や語彙の欄が一部空欄になっている箇所がある。なお本稿の欄に空欄があるのは、バスケット語に対応する語彙が見つからなかった場合である。

2. Alemayehu A. (2001) の語彙記述に関して、本稿の記述との統一を図るため、/ç/は/tʃ/、/c'/は/tʃ'/、/s'/は/ts'/にそれぞれ変更した。また放出音の重子音は/k'k'/や/tʃ'tʃ'/ではなく/kk'/や/tʃtʃ'/のように表記し、一方入破音の重子音は/dʃdʃ/のように表記した。
3. 母音で始まる語彙に、本稿のインフォーマントでは/?/が出てこなかった。
4. 異音 [β] および [ɲ] はそのまま表記した。
5. 放出音の破擦音の記述において、Alemayehu A. (2001) に誤りが多かったので特に注意を払った。
6. 語末の位置に母音 (/a, i, e/) が現れることが可能な場合には、a:f/a/e (22) や do:tʃa/i (94) のように、「 / 」で表した。
7. 動詞は3人称単数男性非完結相で統一させている。非完結相が {-ire} で完結相が {-ine/-ide} となる¹⁴。但し「熟した (ripe:71)」や「腐った (rotten)」などの場合には、完結相で表した。
8. 注釈には Alemayehu A. (2001) の意味記述に関して、別の意味の単語である場合にその意味を明記した。また類義語がある場合にも必要に応じて記載した。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
1	hair	k'omma	k'omma
2	head	pizʔa	k'uma
3	forehead	de:ma	de:ma
4	ear	wajtsi	wajtsa/i
5	hear	siskine	siskire
6	mouth	no:na	do:na/no:na ¹⁵
7	blow	puggire	naffasire ¹⁶
8	whistle	puggire	sutiŋgire
9	sing	ʔetts'ire	jetts'ire

¹⁴非完結相：iji lukkire. 「彼は行く。」完結相：iji lukkine/lukkide. 「彼は行った。」

¹⁵/d/と/n/は子音交替する場合がある。

¹⁶「風が吹く」の意。puggire/fuggire は「口で何かに吹き込む」の意。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
10	dance	keddire	doŋgire ¹⁷
11	drum	kabaro ¹⁸	dibba ¹⁹
12	lip	no:na	do:na/no:na
13	tooth	atf'e	atfi/a
14	tongue	?irts'insi	ints'ars
15	saliva	watsi	tj'utf
16	sweat	tj'awa	tj'awa
17	chin	sintsi	muttfa
18	beard	butf'a	bu:tfa
19	nose	kemma	si:nts
20	smell	sidfire	sidfire
21	eyebrow		komf/mukmuka
22	eye	?a:pe	a:f/a/e
23	see	bekk'ire	bekk'ire
24	weep	jekkire	jekkire
25	tear	aptsi	abts/a
26	neck	si:lla	k'o:ts/silla
27	shoulder	ka:l'a	ganna/ka:lla
28	breast	?amma	amma/tira ²⁰
29	belly	mill	mill/a
30	navel	ganna ²¹	gul'a
31	guts		gartobaz
32	back		uŋka
33	buttocks	sapila	ts'ak'ila
34	knee	buk'e	buk'/a/e
35	elbow		su:k'a

¹⁷ 「ジャンプしながら踊る」の意。keddire はアムハラ風の踊り。dannasire は英語からの借用語で踊り一般を表す。

¹⁸ kabaro <käbäro (Amharic)

¹⁹ オロモ語は dibbe である。

²⁰ amma は「乳房」、tira は「胸」の意。

²¹ 「肩」の意 (No.27 参照)。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
36	foot	tohoje	toha/e
37	sandals	ʧamma	ʧ'amma
38	thigh	bɛʃ:	bɛʃ/bodboda
39	hand	kuf:	kuf/a ²²
40	forearm		kuf/a
41			
42	finger nail	ts'uŋguts	ts'uŋguts
43	skin	gamma	gamma
44	bone	mek'ets	mek'ats
45	heart	bu:da	bu:da
46	blood	sur:ts	sur:ts/a
47	liver	majz	majz
48	bush		baraha
49	thorn	aŋguts	aŋguts/a
50	tree	mirts	mirts/a
51	axe	kalta	kalta
52	tree bark	wajts ²³	fok'a/manğa
53	roof	ts'a:p'a ²⁴	afa
54	leaf	ʃi:ta ²⁵	wajtsa/i
55	rope	ga:di	ga:da/i
56	basket	ʃita	zambila
57			
58	seed	kabbi	kats/a
59	harvest		ʃi:ʃire
60	machete		
61	hoe	ʃork'a	ʃork'a
62	dig	bokkire	bokkire

²² 「手」と「前腕」の区別はない。ちなみに「指」は gil'a である。

²³ 「耳」の意 (No.4 参照)。

²⁴ 「根 (root)」の意。

²⁵ 偽バナナの葉っぱのことで「コチヨ」という食べ物を包むためのもの。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
63	plant	tokkire	tokkire/k'oppire
64			
65	maize	kabbi	kabba/i
66	tobacco	ta:mpa	dampa
67	grass	ma:ta	ma:ta
68	weed	ma:ta	ɸaha
69	flower	bu:na	buna
70	fruit	?a:p	
71	ripe	ka?inne	ka?inne/katts'ine
72	rotten	wakk'ide	wokk'ine
73	meat	?ajj	ajj
74	cut	k'atts'ire	k'atts'ire
75	steal	wukk'ide	wukk'ire
76	give	?immine	immire
77	fat	?indirse	enders/e/duddis/e
78	egg	mukk'e	muk'/a/e
79	hide	?attf'ide	afintre (v.i.)/a:tfire (v.t.)
80	hungry	kafittide	gafittine (v.)/gafa (adj.)
81	cook	ka?iside	kattsire
82	eat	mojne	mojare
83	drink	?uƒkide	uƒkire
84	cup	burtƒukk'o	kobba
85	gourd		botaj
86	laugh	mittfide	mittf'ire
87	vomit	tƒoƒkide	tƒ'oƒkire
88	cough	k'ufide	k'ufire
89	spit	tƒuttide	tƒ'uttire
90	sneeze		jik'irƒire
91	sick	mal?ide	maƒire
92	fall	keddide	keddire

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
93	die	?ajkk'ide	fiakk'ire
94	grave	do:ttf'i	dotfa/i
95	fool	da:f	bo:z/daf
96	one	petten	fettan
97	two	nam?e	nam?i
98	three	hajzze	fiakzi
99	four	?ojddi	ojddi
100	five	?ijfin	ijfin
101	six	lehi	lehi
102	seven	tabza	tabza
103	eight	lamakaj	lamakaj/lamahaj ²⁶
104	nine	sakale	sa:kali
105	ten	tapp'a	tabba
106	twenty	lamtamm	lamtam
107	hundred	mato	ts'et/a
108	man	asi	asi
109	think	ti:ride ²⁷	k'oppire
110	woman	mattf	matf'/a
111	marry	gelside ²⁸	ekpire
112	wedding	diggise	daggasire
113	bear		araddaire
114	wife	mattf	matfo
115	father	ba:be	ba:wa
116	say	gejide	gepire
117	mother	?indo	a:jo/indo
118	ask	?ojttfide	ojtf'ire
119	child	na?i	na?i/a
120	brother	?ifi	ifa

²⁶/k/と/h/が子音交替する例である。

²⁷「性交について考える」の意。

²⁸「性交する」の意。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
121	walk	jeddide	jeddfire
122	run	wotts'ide	wotts'ire
123	rest	fempide	fempire
124	sister	mi:fo	mifo
125	teach	tamarside	tamarisire
126	chief		ka:ta
127	god	θossi	tso:sa/i
128	name	su:n̄tsi	sunts
129	animal	matebaz ²⁹	meh/a ³⁰
130	fur	?isins ³¹	ka:pa
131	hunter	kojire ³²	
132	hunt	tjaddire ³³	ojtire
133	pig	gudinse	gudints/e
134	tail	golisse	golsa/e/i
135	bat		gofa/e/i
136	louse	tjutf'e	tj'u:tj/e/i
137	ant	k'a:tfe	k'a:tj'
138	worm	gots'inse	guts'intsa/a/e
139	fly	wutts'ile	wutsila
140	spider	fararit ³⁴	fan̄ga
141	termite	?olatse	ollattsa/e/i
142a	termite	du:nna	du:nna ³⁵
142b	hill		dettsa/ts'itta
143	honeybee	mats	mats
144	beehive	ts'apa	ts'afa

²⁹ 「獐猛な動物」の意。

³⁰ 「牛、家畜」の意。バスケット語には純粹に「動物」を表す語彙がない。

³¹ 「動物の髭」の意。

³² 「探す」の意。

³³ 「刺す」の意。

³⁴ Jararit < färärot (Amharic)

³⁵ 「小さな丘」の意。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
145	honey	?ess	ess/a/e
146	goat	de:fi	de:fa/i/e
147	horn	?ufintf'i	ufintfa/i
148	cow	mi:ze	mi:z/a/e
149	donkey	je:re	jera
150	hit	bukkide	bukkire
151	chicken	ku:ta	kuta
152	bird	kafi	kafa/i
153	claw		ts'uŋguts ³⁶
154	wing	ka:pa	ka:pa
155	feather	golissi ³⁷	balla
156	fly	guts'ila	farire
157	nest	ketsi	kaf ke:tsa
158	snake	ʃoffi	ʃo:f/a
159	rat	?itts'i	i:ts'a
160	kill	wodide	wodfire
161	scorpion		
162	fish	mola	mola
163	fishnet	manθak'o ³⁸	maraba ³⁹
164	swim	gutide	gutire
165	frog	kobarse	ʃodda/gobarsa/e/i
166	thread	kir	kir ⁴⁰
167	sew	sikkide	sikkire
168	tie	k'attf'ide	k'attfire
169	crocodile		hajlafa
170	fear	?ittfide	ittfire
171	buffalo		mentsa

³⁶人間と鳥で区別はない。

³⁷「しっぽ」の意。

³⁸アムハラ語の「竿」、バスケット語なら k'apa になる。

³⁹maraba < mārāb (Amharic)

⁴⁰kir < kərr (Amharic)

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
172	monkey	gaja	gaja
173	leopard	ma:hi	maha/i
174	cat	bo:wa	bawa
175	hyena	godarsi	godarsa/i
176	dog	kana	kana
177	listen	siskide	siskire
178	bark/tree (N)		
179	bark	wujside	botf ⁴¹ ire/ujsire/wujside ⁴¹
180	come	jejide	fajere (1sg.)/jejire (3sg.)
181	bite	θak ⁴² ade	ɖak ⁴² ire
182	banana	muz	muz
183	want	kojintide	kojire
184	count	pajidide	pajidire
185	take	?ekkide	ekkire
186	hold	tokkide ⁴³	edire
187	path	gojtsi	gojtsa
188	house	ketsi	kertsa
189	door	kara	kara
190	sweep	pittide	fittire
191	enter	gelide	gelire
192	exit	keskide	keskire
193	stool	kulma	kulma/ojda ⁴⁴
194	make	?osside	ottsire
195	sit	do?ide	do?ire
196	stand	?ekk ⁴⁵ ide	dendire/ekk ⁴⁵ ire
197	salt	mats ⁴⁶ ina	mats ⁴⁶ ina

⁴¹botf⁴¹ire は「犬がほえる」、ujsire は「他の動物(例えばライオン、ハイエナ、ネコ、ニワトリなど)がなく、」wujside は「人間が叫ぶ」の意。

⁴²「動物が足で人間をつかむ」の意。

⁴³「結ぶ」の意。

⁴⁴kulma は「三本足の背もたれがない椅子」、ojda は「四本足の背もたれがある椅子」の意。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
198	pot	?ot	ot
199	fire	tama	tama
200	burn	mittfide	ejtire/mittf'ire
201	hot	ho??ire	ho? ⁴⁵
202	cold	zakkire	irts ⁴⁶
203	firewood	mitsi	mits/i
204	smoke	tjuze	tj'ujz
205	ashes	buda	buda
206	stick	mitsi	ʒafa
207	stone	futtj'	futj
208	smooth	li:k'i ⁴⁷	mak'alsa ⁴⁸
209	earth	sa:z	sa:z
210	mud	takula	to:k'ila
211	clay		ot sa:z ⁴⁹
212	sand	fama ⁵⁰	k'atj'/a
213	dust	bul?a	bul?a/banna
214	gold	work'e	work'/e ⁵¹
215	silver	bir	bir work'
216	money	bire	mi:fa
217	buy	heŋgide	wongire ⁵²
218	sell	wongide	wongire
219	market	gabi	gaba/i
220	mountain	?inda	inda

⁴⁵ho'ire は「暑くなる(動詞)」の意。

⁴⁶irts は「寒い(形容詞)」、zakkire は「寒くなる(動詞)」の意。ちなみに za:ha は「寒さ(名詞)」。

⁴⁷「パウダー(dilla)がなめらか」の意。

⁴⁸「机や椅子がなめらか」の意。

⁴⁹「壺の土」の意。

⁵⁰「川の中の砂」の意。

⁵¹work' <work' (Amharic)

⁵²「買う」と「売る」は同じ動詞を使う。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
221	wind	ʔajgits ⁵³	nefa:s ⁵⁴
222	cloud	fara	fa:ra
223	rain	ʔire	ira/e
224	rainbow	zu:le	zulla
225	lightning	dada	zelints
226	thunder	dada	dada
227	dew	tʃalka	tʃ'alka
228	river	watsi ⁵⁵	wa:ta
229	canoe		
230	bridge	dildi ⁵⁶	zokka
231	water	watsi	watsa
232	well		doʃa
233			
234	hot (water)	hop'e	hoʔwatsi
235	lake		
236	sky	ʔapisazi ⁵⁷	afa
237	night	kamma	k'am
238	moon	agana	agana
239	star	kokob ⁵⁸	ts'o:lint
240	sun	ʔawa	awa
241	white	borse	bors/e
242	black	kartse	karts/e
243	red	zok'otse	zok'ats/e
244	green	tʃalla	tʃ'alla
245	yellow		wo:ra

⁵³ 「強い風(竜巻)」の意。

⁵⁴ nefa:s <nəfas (Amharic)

⁵⁵ 「水」の意 (No.231 参照)。

⁵⁶ dildi <dəldə (Amharic)

⁵⁷ afisa:z は「空で」の意。afi (sky)-sa:z (earth:209)

⁵⁸ kokob <kokāb (Amharic)

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
246	brown	worde	bunama ⁵⁹
247	knife	maffi	maffa/i
248	sharp	atʃintʃʼi	atʃʼintʃe/lefintine/ofʼi
249	dull	malkʼine	malkʼine/ofʃʼakkaj
250	bow		zuggire
251	arrow		dojga
252	spear	to:re	to:ra
253	throw	ʒuguttide	ʒuguttire/dorbire ⁶⁰
254	shield	gitime	gitima/i
255	war	ʔola	ola
256	fight	ʔolintide	gojlintire/olintire ⁶¹
257	bad	ʔi:te	i:it
258	good	koffe	kof
259	wide	ʃakke	ʃakk/e/dalg/a
260	narrow	kunʔe	kunʔe/a
261	straight	likke ⁶²	tsʼit
262	crooked	wajtse ⁶³	wobbu
263	long	barintse	ʃarints
264	short	kabintse	kʼabints
265	big	ʔettʃʼe ⁶⁴	ʃetʃi
266	small	gi:lle	gilla
267	thick	ʔenderse ⁶⁵	kumts
268	thin	ʃawke	ʃawk
269	heavy	ʔettʃʼe	de:tʃʼa/i

⁵⁹bunama <bunnamma (Amharic), worde という語彙はない。

⁶⁰ʒuguttire は「投げるものは何でもよい」のに対して、dorbire は「投げるものは槍のみ」である。

⁶¹gojlintire は「槍などによる旧式の戦い」の意。olintire は「近代戦争での銃による戦い」の意。

⁶²likke kofa で「よい考え」の意。

⁶³「耳」の意 (No.4 参照)。

⁶⁴「賢い」の意。

⁶⁵「太い」の意。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
270	light	gilla	fal
271	old	tʃiŋgafa	tʃʰiŋgaf/a
272	new	addis	oratts/a
273	all	wojtsi	wojtsa/i
274	none	abakare	aβakar
275	left	hadirsi	fiadirs
276	right	?uʃatʃʰi	uʃatʃ
277	yes	?a:	a:
278	no	baje	gidakkaje
279	hard	?ittʃʰ	mints
280	soft	gi:lle	li:kʰ
281	many	wolints	wojlints
282	few	gi:lle	gilla
283	up	apa	lok/afa ⁶⁶
284	down	sa:da	jet/sa:d ⁶⁷
285	this	?ada	fiaj
286	that	jitada	sek
287	who	?ono	o:no
288	whose	?oja	oja
289	what	abza	abza
290	when	anta	anta/e
291	yesterday	zinabo ⁶⁸	zikʰanti
292	where	?ojdi	wojda
293	here	?inde uke	fiajda
294	how	?ojtara	wozar
295	why	abzabo	aβaβo
296	clothing	?apila	afila

⁶⁶ 「空」の意から転じる。

⁶⁷ 「地面」の意から転じる。

⁶⁸ 「明日」の意。

No	Gloss	Alemayehu A. (2001)	本稿
297	wet	za:ke	irts' ⁶⁹
298	dry	meline	mel
299	dirty	?i:te	k'at
300	garbage		fittsa
301	pour	dukk'ide	dukk'ire
302	empty	pore	aβakar
303	full	kumse	kumts
304	bathe	metf'intide	metf'ire
305	lie	surk'ide	surk'ire
306	yawn	surk'ide	ʃak'untire
307	sleep	surk'ide	surk'ine
308	I	tani	ta:na
309	you	nenā	ne:na
310a	he	ija	ija
310b	she		izo
311	we	nuna	nuna
312	you (pl.)	?inte	jinta
313	they	?inte	inta
314	push	sugude	sugire
315	pull	gottf'ide	gatfire
316	jump	doŋgide	doŋgire
317	road	gojtsi	gojtsa/i/e
318	fence	ats'irine	girda
319	gate	geline	kara
320	scratch		ts'ak'ire
321	and	ki	ki ⁷⁰
322	at	-bara	-bara/-i/-galla ⁷¹

⁶⁹ 「冷たい」と「濡れている」は同じ語彙を使う。

⁷⁰ iji ki tana 「彼と私」

⁷¹ 時間を表す場合。場所を表す場合は-i/-galla などを用いる。ただし bara は通常具格として使われる。

【参照文献】

- Aklilu Yilma 2002 *Sociolinguistic Survey Report on the Chara Language of Ethiopia. SIL Electronic Survey Reports 032* (<http://www.sil.org/silesr/2002/032/>). Summer Institute of Linguistics.
- Alemayehu Abebe 2001 *Sociolinguistic Survey Report on the Ometo Dialect of Ethiopia, Part II. SIL Electronic Survey Reports 012* (<http://www.sil.org/silesr/2002/012/>) Summer Institute of Linguistics.
- Alemayehu Abebe 2002 *Sociolinguistic Survey Report of the Mesketo Language of Ethiopia. SIL Electronic Survey Reports 067* (<http://www.sil.org/silesr/2002/067/>) Summer Institute of Linguistics.
- Alemayehu Haile 1994 'Some Aspects of the Phonology of Basketo', *Proceedings of the Eleventh International Conference of Ethiopian Studies*. Institute of Ethiopian Studies, Addis Ababa University: 393-406.
- Allan, Edward J. 1976 'Kullo', Bender, Marvin L. (ed.): 324-350.
- Bender, Marvin L., ed. 1976 *The Non-Semitic Languages of Ethiopia*. African Studies Center, Michigan State University, East Lansing.
- Bender, M. L., J. D. Bowen, R. L. Cooper, and C. A. Ferguson, eds. 1976 *Language in Ethiopia*. Oxford University Press, London.
- Cerulli, E. 1938 *Il linguaggio dei Giangero ed alcune lingue Sidama dell'Omo (Basketo, Ciara, Zaissè) Studi Ethiopici III*. Istituto per l'Oriente.
- Ferguson, C. A. 1976 'The Ethiopian Language Area', Bender, M. L., J. D. Bowen, R. L. Cooper, and C. A. Ferguson, (eds.): 63-76.
- Hayward, R. J. 1990 *Omoti Language Studies*. School of Oriental and African Studies, University of London.
- Hayward, R. J. 1990 'Notes on the Zayse Language', Hayward, R. J. (ed.): 210-355.

A Vocabulary of Basketo

Hideyuki INUI

This paper is a vocabulary list of Basketo, a language spoken in the South Western part of Ethiopia. Basketo is part of the West Omoto group of the Omotic branch.

The vocabulary list is based on the S.L.L.E. (Survey of Little-known Languages of Ethiopia) 320-Item Word List. Basketo has 5 vowels and 29 consonants. The short and long vowels are minimally contrastive. The phoneme inventory is as follows.

Vowels:

/i, e, a, o, u/

/i:, e:, a:, o:, u:/

Consonants:

/p, t, ts, tʃ, k, ʔ, b, d, dʒ, g, p', ts', tʃ', k' β, d, f, s, ʃ, h, z, ʒ, fi, m, n,

r, l, w, j/

inui@yamaguchi-u.ac.jp